

【評価実施概要】

事業所番号	173800491		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」		
所在地	日高郡新ひだか町静内中野町2丁目12番6号 (電話) 0146-43-0706		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21 年 3月6 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	9月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人	
職員数	12 人	常勤	5 人,	非常勤 7人, 常勤換算 4.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(3月 27 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1		要介護 2	2		
要介護 3	3	要介護 4	3		
要介護 5	1	要支援 2	2		
年齢	平均 85.8 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック、静仁会静内病院、清和会石井病院、山口歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは街の中心部から少し離れた閑静な住宅地にある。介護のあり方に熱い想いを持った経営者が運営している。その一環として、スタッフの質を高めるために、外部研修に積極派遣(平均月1人)と資格の取得にも力を入れている。スタッフ数も多く雇用し、朝と夕食時間帯に多く配置して対応している。職員の健康などを考えて、年休取得が希望に応じ、更に勤務変更にも対応している。利用者の残存能力を維持できるようにテーブルに穴を開け一人で立ち上げられるようにしたり、洗面台が上下に調整できるように工夫されている。スタッフも明るく利用者に接し笑い声が絶えない。居室には馴染の家具や写真などが掲げられている。利用者のペースに合わせた支援に心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 会議の定例化と契約書の機関名記載、苦情処理体制について改善要望があった。会議の定例化は、定期的に行われ、議事録も作られている。契約書は作り直され、機関名等はきちんと書かれてある。苦情処理に関するポストの設置などの、受付システムも確立している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をおこなうにあたって、割り当て箇所毎のチームを作り、検討した結果を付き合わせて討議を重ね、職員全体のものにするを目的とした。具体的には、利用者主体に物事を考えるためには職員の「気づき」が重要と考え研修・勉強会を重ね、生き生きと働けるように努力している。そうした自己評価として今回作られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を定期的開催する取り組みが1月を再出発として位置づけ内容の充実に向けて取り組んでいる。会議には自治会長・地域包括センター・地域住民の方に参加してもらい、ホームとしての「運営規程」「事業目標」「運営方針」「倫理綱領」を説明し取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見・苦情・要望の受付は、来所時に積極的に受けているが、玄関に受付箱を設置している。利用者の生活状況を個々人の専用ノート作り部屋においてある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 高齢者の利用形態を選択できるように多様化(共同生活支援ハウス・ペアハウス・独居ハウス等)したシステムを作り、地域に周知して取り組んでいる。花見・お盆・クリスマスのイベントを三大大行事として地域住民の参加を呼びかけ、共に楽しんでいる。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らせるように日々努力を重ね取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念を作り、具体的に実践するため「ほほ笑み10か条」を居室に掲げ、毎日のミーティングで確認しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内行事にも参加とホームの行事（花見・お盆・クリスマスの三大事業）に呼びかけ参加してもらっている。体験実習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、外部評価の結果と照らし合わせながら、改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議に自治会長・地域住民にも構成員となってもらい意見を伺っている。グループホームを理解してもらうために回覧板を利用して周知に努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の主催する研修会・講演会に積極的に参加するとともに、事業運営や事務連絡で連携を強めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一度お便りを発行し様子を知らせている。個々人の連絡ノートを作り、本人だけの情報を提供している。金銭出納簿を提示しサインをもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置と居室に連絡ノートを置き、苦情・要望・提案をもらえるようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>複数ある事業の交流と人事交流を行い顔馴染みになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月2回の実技講習・内部研修を開催している。外部研修にも積極的に参加と個人が希望講習会申し込要望があれば応じ、研修費用はホームが持っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>道グループホーム協議会とブロック研修会に積極的に参加している。各ホーム間でスタッフの相互研修を実施して交流している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人のディサービスや支援ハウスを利用している利用者がグループホーム入居することが多いため顔馴染みになっている。その他の利用申し込みの場合は、自宅・病院に赴き面接した後、見学してもらいながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物たたみ・茶碗拭き・テーブル拭き・モップかけ・タオルかけ・玄関掃除・調理の手伝い等を得意な分野を担当してもらい、共に行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	お墓参り、兄弟の家・子供の家以外泊や日帰りの訪問支援をしている。日々の生活では仕草や言葉かけなどして支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月モニタリングをし、見直しシートに作成して、職員とケアマネージャ・管理者による介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	状態の変化を見ながら見直しをして、新たな介護計画を作成し支援をしている。家族にはお便りで状況を知らせている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	近隣高齢者が状況に応じてショートステイ・デイサービス・支援ハウス・共同生活支援ハウス・独居ハウス・ペアハウスを利用できるようになっている。通院・理美容院・買い物などの送迎支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>法人には3人の看護師がいる。連絡を密にしながらかかりつけ病院や協力医の協力を仰いでいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の看取りをマニュアル化しスタッフ全員で共有化し、段階的に家族と主治医と相談しながら支援体制を整えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングで「自分・親だったら」と自分自身を置き換えて討議をし、対応に気をつけ支援している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の動きや意思を時間をかけて聴きながら対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人の嗜好・嫌いな食べ物を把握し、希望を取り入れたメニュー作りをしている。当日のメニューにこだわらず、希望があれば変更する。食事は職員も同席し、同じものを食べてながら談笑している。後片付けにも加わっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は2時からとなっており、希望があれば毎日でも入れる。入浴介助には配置を増やし対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を生かしてもらうために、洗濯たたみ、玄関の掃除、魚をさばきなどの調理をしてもらっている。昔楽しんだ百人一首、花札などで能力を生かしている。気分転換のために、他のホームへ訪問などもしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、理美容院通院など日常外出とドライブ、外食、花見、いちご狩など季節に合わせた外出をしている。昔住んでいた家に帰って泊まったりしている。歩行困難な方には、車椅子、歩行器を使い外出支援を積極的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	避難訓練は行っているが、地域住民の協力体制がまだ不十分なため、運営委員会を通して地域の協力をお願いする事になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	個々人の水分量を把握し、食事に工夫をしたり、声かけをしながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	増改築しているため、廊下がやや狭いが、一人だけになれる、あるいは二人で座れる長椅子の場所が確保されている。今後トイレと玄関の工夫し、より良い住居にしていくことになっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室にはテレビが置かれている。家具などは馴染の物が置かれている。家族の写真や位牌なども置かれている。		

 は、重点項目。